

東日本大震災復興祈念特別展

復興を支えた人々の祈り

東大寺と東北

2018年 4月28日[土] - 6月24日[日]

東北歴史博物館



◎開館時間 / 9時30分～17時(入館は16時30分まで) ◎休館日 / 毎週月曜日(ただし、4月30日は開館) ◎主催 / 復興祈念—東大寺展実行委員会(東北歴史博物館・河北新報社・仙台放送・日本経済新聞社・多賀城市) ◎共催 / 宮城県、多賀城市教育委員会、NHK仙台放送局 ◎特別協力 / 華嚴宗大本山東大寺 ◎学術協力 / 奈良国立博物館 ◎特別協賛 / 清水建設、杜の都信用金庫 ◎協賛 / 岡村印刷工業、東北電力 ◎協力 / 鶴岡八幡宮、瑞巖寺、志波彦神社鹽竈神社、JR東日本仙台支社、あいおいニッセイ同和損保、大光電機、ニコンイメージングジャパン ◎後援 / 文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、奈良市、太宰府市、涌谷町、東北経済連合会、東北観光推進機構、東北市長会、宮城県市長会、福島テレビ、岩手めんこいテレビ、さくらんぼテレビ

◆「仏像大使」トークショー

日時：4月28日(土) 13時30分～15時
出演：イラストレーター みうらじゅん氏
作家・クリエイター いたうせいこう氏
会場：多賀城市文化センター 市民会館小ホール
(多賀城市中央2-27-1)
定員：450名 参加費：3,000円(税込、展覧会鑑賞券付き)
※ローソンチケットで参加チケットを購入ください。
販売期間は、2月1日(木)～4月27日(金)。



本展の仏像大使に就任したお二人は、展覧会オリジナルグッズの開発や音声ガイドの出演などの活動を予定しています。

◆講演会

- ①「重源上人模刻像制作秘話」
日時：4月28日(土) 10時30分～12時
講師：華嚴宗管長・第222世東大寺別当 狭川 普文師
彫刻家 三輪 途道氏、日本画家 篠崎 悠美子氏
- ②「鎮護国家と東大寺」
日時：5月13日(日) 13時30分～15時
講師：東北大学大学院准教授 堀 裕氏
- ③「東大寺の彫像—鎌倉復興期の作例を中心に—」
日時：5月27日(日) 13時30分～15時
講師：奈良国立博物館 上席研究員 岩田 茂樹氏
- ④「写真家から見た東大寺の魅力」
日時：6月3日(日) 13時30分～15時
講師：写真家 三好 和義氏
- ⑤「真観地震と東北の復興」
日時：6月17日(日) 13時30分～15時
講師：東北学院大学教授 佐川 正敏氏
※講演会会場・定員・参加方法等
会場：東北歴史博物館 講堂
定員：280名 参加費：無料、当日先着順(ただし、本展の観覧券が必要)

◆学芸員による展示解説

日時：会期中の毎週水曜日 13時30分～14時30分
講師：東北歴史博物館 学芸員
会場：東北歴史博物館 講堂
定員：280名 参加費：無料、当日先着順(ただし、本展の観覧券が必要)

◆写経体験

日時：4月28日(土)、5月20日(日)、6月9日(土) 13時30分～15時
協力：華嚴宗大本山東大寺
会場：東北歴史博物館 研修室
定員：40名 参加費：有料1,500円(税込、東大寺監修・写経セット実費代)
当日先着順(ただし、高校生以上対象で本展の観覧券が必要)

◆砂金採り体験

日時：5月12日(土)、5月19日(土)、5月26日(土)
10時～、11時～、13時30分～、14時30分～(所要時間30分)
会場：東北歴史博物館 北側広場
定員：各回40名
参加費：無料、当日先着順(ただし、小学生のみ対象で本展の観覧券が必要)

◆「多賀・光の多面体」～古代と現代を結ぶオペラティックナイト

日時：5月4日(金・祝)、5月5日(土・祝) 18時30分～20時30分
内容：光のアート・歌・舞・劇を融合し、「ものあはれ」の世界観を表現する舞台公演。出演は能楽師 津村禮次郎氏ほか
会場：東北歴史博物館 水上ステージ前
参加費：無料(ただし、本展の観覧券が必要)
※当日は21時30分まで展覧会をご観覧いただけます。

◆奈良と東北の子どもたち交流コンサート

日時：6月10日(日) 13時30分～15時
内容：広がれ復興の輪。若手・宮城・福島・奈良の子どもたちが、東北と奈良のわらべ歌を歌います。
会場：東北歴史博物館 講堂
定員：280名 参加費：無料、当日先着順(ただし、本展の観覧券が必要)

◆物産展(地元の名産品・土産販売)

日時：会期中の毎週土・日曜日、祝日
会場：東北歴史博物館 森のピロティ(南側)

◇関連行事「東日本大震災物故者慰霊と被災地復興への祈り」

日時：5月19日(土)
会場：瑞巖寺(宮城県宮城郡松島町松島町内91)
主催：華嚴宗大本山東大寺、鶴岡八幡宮

同時開催「東大寺・奈良を彩る花の襖絵展」



(左) 小泉淳作画 東大寺本坊襖絵「本坊の桜」
(中) 杉本健吉画「大仏殿」
(右) 榎莫山画「大仏殿」 ※いずれも東大寺蔵

2010年に光明皇后1250年御遺忌法要を記念して、故小泉淳作画師が東大寺に奉納した本坊襖絵40面のうち、「蓮」や「桜」を描いた32面を展示。盧舎那大仏を教主とする華嚴経の世界観にも通じ、生命感にあふれた襖絵を紹介し、また、杉本健吉・須田剋太・榎莫山・三好和義ら著名な書家・画家・写真家による東大寺の境内画・写真もあわせて展示します。

日時：4月7日(土)～5月27日(日)
10時～17時(入館は16時30分まで)
休館日：毎週火曜日
会場：TFUギャラリーミニモリ
【東北福祉大学仙台駅東口キャンパス】(宮城県仙台市宮城野区榴岡2-5-26)

観覧料(税込)

「東大寺と東北」展	「花の襖絵」展			「東大寺と東北」展・「花の襖絵」展 共通セット券				
	当日	前売	団体(20名以上)	当日	前売	第一次販売	第二次販売	第三次販売
一般	1,500円	1,300円	1,400円	700円	500円	1,600円	1,800円	2,000円
小・中・高校生	600円	—	500円	300円	—			
シルバー(65歳以上)	1,300円	—	1,200円					

※「東大寺と東北」展の前売券販売期間は、2月1日(木)～4月27日(金)。「花の襖絵」展の前売券販売期間は、2月1日(木)～4月6日(金)。
※観覧チケットは、セブンチケット、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、藤崎、仙台三越、日専連カスタマーセンター(アエルビル9F)、ニッセン・テラスセルバ店、イオン仙台店、イオン仙台中山店、イオン仙台幸町店、イオン利府店、イオン富谷店、イオン名取店、イオン多賀城店、イオン石巻店、みやぎ生協共同購入部、河北新報販売店ほかで販売。(共通セット券は、セブンチケット、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラスのみで販売。みやぎ生協共同購入部では、「東大寺と東北」展のみ販売)
※「東大寺と東北」展の観覧チケットおよび共通セット券で、東北歴史博物館の常設展もご覧いただけます。年齢が確認できる身分証明書(免許証・保険証・学生証等)を会場でご示しいただく場合がございます。

音声ガイド

多賀城市出身の俳優「千葉雄大」さんがスペシャルナビゲーターを務めるほか、仏像大使のお二人も特別出演。東大寺の復興の歴史や東北との関わり、作品の見どころなどをわかりやすく解説します。
解説時間：約30分
貸出料金は520円(税込)



展覧会公式サイト

<http://todaiji.exhn.jp/>
※イベントの詳細など最新情報を随時ご案内します。

交通アクセス



【JR線をご利用の場合】
●JR東北本線「国府多賀城駅」下車すぐ(仙台駅から14分)
●JR仙石線「多賀城駅」下車、徒歩約25分、またはタクシー約10分
※JR仙石線「多賀城駅」から臨時バスあり(約60分おきに運行。1人200円、会期中の土日祝日と6月16日～24日のみ)
【お車をご利用の場合】
●三陸自動車道「多賀城IC」から約5分
●国道4号線苦竹インターから国道45号線を塩釜方向に8km(約25分)
※無料駐車場あり
【東京方面からご来場の場合】
●JR東北新幹線「仙台駅」へ(東京駅から約1時間30分)
JR東北本線に乗り換え、「国府多賀城駅」下車すぐ(仙台駅から14分)
(問い合わせ) 東北歴史博物館 Tel.022-368-0106
宮城県多賀城市高崎1-22-1

東北初!! 東大寺の寺宝や史料を一堂に公開

— 国宝17点、重要文化財25点

鎌倉・江戸時代の復興

二度の大仏焼失を乗り越えて

奈良時代に創建された東大寺は、その長い歴史において、二度にわたる災禍で大仏（盧舎那大仏）や伽藍の焼失と復興を繰り返しています。源平の争乱の際、平重衡の南都焼き討ちによって大仏殿はもとより、堂塔伽藍の大半が焼失しましたが、鎌倉時代に重源上人が中心となって復興を成し遂げました。しかし、戦国時代には奈良も争乱の舞台となり、再び中心伽藍のほとんどが焼失。大仏は百年以上も雨ざらしのままとなりましたが、江戸時代に公慶上人が全国を勧進し、多くの人々の力を得ながら再興が実現しました。その復興は新たな文化や歴史をも創造し、人々に勇気と希望を与えてきました。

東大寺や東北地方に残されてきた数々の史料や寺宝の展示を通して、東大寺再興の歴史が、震災からの一日も早い復興を願う東北の人々にとって、「未来への道標」となることを願って本展を開催します。

東大寺の創建

国家安泰を祈念して建立



① 重文 四聖御影（永和本） 東大寺蔵
大仏造立を発願した聖武天皇、大仏開眼の導師を務めた菩提暹那、大仏造立の勧進を担った行基菩薩、東大寺初代別当を務めた良弁僧正を描く。



② 国宝 誕生釈迦仏立像及び灌仏盤 東大寺蔵
毎年4月8日に行われる釈迦の誕生を祝う花祭り（灌仏会）に用いられていた誕生仏。天平勝宝4（752）年の大仏開眼会頃の造像。



③ 国宝 金銅八角燈籠火袋羽目板 東大寺蔵
大仏殿前庭に安置される、金銅八角燈籠の火袋に嵌められた一枚の羽目板のうちの一枚。奈良時代の東大寺創建当初を伝える作品。



④ 国宝 弥勒仏坐像 東大寺蔵
小像ながら量感に富んだ堂々たる姿を大仏造立の雛形に見立てて「試みの大仏」との通称がある。



⑤ 重文 伎楽面酔胡徒（大仏開眼供養会所用） 東大寺蔵
伎楽は仮面をつけて演奏に合わせて演じる無言劇。面裏の墨書により、大仏開眼供養会で上演、使用されたことがわかる。



⑥ 国宝 金光明最勝王經金字宝塔曼荼羅図 中尊寺蔵
紺紙に金泥で「金光明最勝王經」を宝塔の形に書写したもの。平安時代の作で、陸奥国葦の金を使用していると考えられる。

A special exhibition praying for recovery from the Great East Japan Earthquake **Todayji and Tohoku: The People's Prayers for Recovery**



⑦ 国宝 重源上人坐像（5月29日〜6月24日展示） 東大寺蔵
治承4（1180）年の兵火によって、東大寺は大仏と大仏殿をはじめ中心伽藍を焼失。その復興に尽力した、大勧進重源上人の晩年の姿をあらわす。



⑧ 重文 地藏菩薩立像 東大寺蔵
重源上人との交流から、鎌倉期の東大寺復興の造仏に活躍した仏師快慶の円熟期の名作。



⑨ 重文 公慶上人坐像 東大寺蔵
東大寺の江戸復興に尽力した公慶上人は、貞享2（1685）年から東北地方を含め全国を巡る勧進を始め、宝永2（1705）年に入寂する直前まで活動した。



⑩ 二月堂御正鉢 東大寺蔵
二月堂の秘仏本尊「十一面観音」のお前立ちとして人々が礼拝する懸仏。公慶上人による大仏殿復興に多大な支援を行った桂昌院（徳川五代将軍綱吉の生母）が奉納。



⑪ 大仏螺髪（勧進用） 東大寺蔵
公慶上人が全国を巡って勧進を行った際に宝物を持ち込んだとの記録があり、大仏の大きさを伝えるために用いられたと見られている。



⑫ 大仏開眼供養図 東大寺蔵
公慶上人によって大仏の修復が成し遂げられ、元禄5（1692）年に行われた大仏開眼供養会の様子を描く。

東大寺と東北のつながり

東大寺の大仏は、天平17（745）年に造立が開始され、天平勝宝元（749）年10月に鑄造が完成しました。当初は大仏を黄金色に彩るのに必要な金が確保されていませんでしたが、天平21（749）年2月、陸奥国小田郡（現在の宮城県）で、金が産出。黄金900両（約12.6kg）が献上され、大仏の鍍金に用いられました。

鎌倉の復興時には、平泉藤原氏が砂金を献上しました。江戸の復興の際には公慶上人が東北まで勧進して協力を依頼。大仏内部の木組で造り、寄進者に与えたとされる仏像が東北地方に伝えられています。

現代においても、昭和48年から40年以上にわたり、修二会と呼ばれる除災招福を祈る法会で着用される紙衣に、宮城県の白石和紙が用いられるなど、東大寺と東北には奈良時代から今日に至るまで深いつながりが認められます。本展ではこうした関連資料や宝物も展示します。



砂金（涌谷町黄金沢採取） 涌谷町教育委員会蔵

※ ①②③④⑤ 画像提供：奈良国立博物館撮影・佐々木香輔 ⑥⑦⑧⑨⑩ 画像提供：奈良国立博物館撮影・森村欣司 ⑪ 撮影：エス・アンド・ティ・フォート ※ 表紙 東大寺大仏殿 撮影：三好和哉 右下 国宝 重源上人坐像（5月29日〜6月24日展示） 東大寺蔵 画像提供：奈良国立博物館撮影・佐々木香輔